

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200106		
法人名	社会福祉法人 三幸会		
事業所名	グループホームやまざき		
所在地	静岡県浜松市西区雄踏町山崎2829番地		
自己評価作成日	平成23年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2278200106&SCD=370
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1F		
訪問調査日	平成23年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定期的にお楽しみ昼食や外出をする機会を設けて楽しんでいる。のんびりと安心して暮らしていただ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一法人の特別養護老人ホーム山崎園に隣接していて、避難訓練や行事などを合同で実施し、協力体制が整っています。入居者は自ら連絡通路を通り、厨房へ食材を取りに行き、食事の仕度や片付けなどに生き活きと参加しています。認知症対応型通所介護(定員3名)が日替わりで通ってきて、レクリエーションが増え活気が出て、新たな馴染みの関係が出来ています。外出は、土日を中心に計画が立てられ、2ヶ月に1度お楽しみ昼食という企画があり買い物から調理までの一連の流れを楽しんでいます。職員は、施設内勉強会や研修会に参加してスキルを高め、一人ひとりの尊厳を尊重しながら、家庭的でゆったりと過ごせる支援をしてい

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を事業所の目に付くところに掲示していつでも読む事ができるようにしている	法人理念6か条を掲げ、管理者は、一人ひとりの尊厳を尊重した対応や言葉かけを大切にしています。初心を忘れないためにも月1回のカンファレンスなどで職員に話をし、方向が違っていると気づいたときには、個人的に注意しています。	以前グループホーム独自の理念を作る試みがありましたが、実行されていません。常に立ち戻る基本的な考え方、よりどころとしての解りやすい理念を、全職員で話し合い、作り上げていくことが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり買い物や外食には地元のお店を利用している	地域交流会への参加、個人商店への買い物、外食などには積極的に地元を利用しています。運営推進会議には、毎回地域住民が参加していますが、会議以外では地域住民の関わりの機会が少ないため、庭の畑の手入れなどの協力依頼を検討中です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し地域の方と意見交換をする場を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や近況報告が主となっている 意見交換した内容は職員に伝えている	2ヶ月に1度、入居者、家族、地域住民、民生委員、区役所、地域包括担当が参加し定期的に開催されています。地域住民より、認知症ケアのアドバイスの機会を依頼されるなど、ホームの存在意義を表しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者に参加してもらっている	運営推進会議を定期的に毎月第3火曜日15時に開催することで、予定し易く出席が得やすいため市の担当者は毎回出席しています。関係は良好で事業所の実情や入居者の様子を伝えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回会議を開き話し合いをしている 玄関は日中開錠している	毎月法人内の「身体拘束虐待ゼロ推進委員会」に出席し、内容は回覧し共有しています。屋間の玄関開錠については、見守りにより実行されています。歩行できないのに立ち上がる場合は、理由を探し対応するように努め、スピーチロックにも意識して取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な会議の中で話し合いをしている 研修にも参加し学んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の方が利用されている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を催しその機会を作っている 面会時にも意見など伺っている	入居者の情報は毎月のホーム便りに加え、担当者からの様子が記載された手紙と共に送付されます。面会時には職員から家族に必ず声をかけ、家族との信頼関係を築く努力をし、年1回の家族会でも話せる機会を設けています。最近意見箱を設置しましたが、まだ利用はありません。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議時などに聞く機会を設け話し合いをしている	管理者と職員間で日常的に話しやすい関係が出来ていて、言いにくい場合は意見ノートで提案しています。入居者の状態の変化に伴い現在の浴槽では入浴が困難なため、職員から改修の意見が上がり本部に稟議が通り、個浴のできる浴槽に変更される予定です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件をたえず見直して労働条件の改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会や外部研修会に参加してスキルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上	他施設職員と交換研修を行いサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時 入所時に話し合いをする機会を設け本人の要望に添えるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時 入所時に話し合いをする機会を設けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時における状態要望を十分理解した上で支援するように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもとずき共に生活する者同士お互いに寄り添い心触れあって助け合い支えあうように努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を伝えたり意見を聞いたりしながら家族との関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活史を大切に支援をしている	入居前の自治会の方や勤め先の同僚が訪ねて来ることもありますが、事業所としての支援には至っていません。正月や法事に家族と帰宅し、馴染みの人と過ごすなど家族の支援が主になっています。目標達成計画の生活暦項目の聞きだしはまだ出来ていません。	入居者のこれまで培ってきた馴染みの生活状況について、本人や家族から情報を集め、生活暦を詳しく知ること、一人ひとりの馴染みの人や場のつながりが継続できる支援を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に生活する者同士としてお互いに協力しながら仲良く暮らしていけるよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所された方の相談にのり支援に努めた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から観察して把握に努めている	思いや希望を伝えられる入居者が多いため、日々の生活の中で、担当者以外にも聞き取りをし共有しています。日用品の購入希望には迅速に対応するなど、本人にとって快いことは何かを考え、意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族またかかりつけ医などに情報を問い把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌をパソコンに記録し必要時には連絡ノートにて記録して確認できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回開催するケア会議において担当者会議を行い話し合い検討して介護計画を作成している	月1回、全職員が参加し、本人・家族の意向と担当職員の情報をケア会議で検討し介護計画を作成します。モニタリングは計画作成担当者が介護員を兼ねているので情報を得やすく、定期的に行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌をパソコンに記録して情報を共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の特養と協力できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できていない 今後の課題です		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を聞き必要な情報は医師に伝えられるようにしている	入居時に家族に協力医の体制(月2回の往診)について説明をしますが、かかりつけ医の判断は家族がします。受診は家族の付き添いが基本で、不可能な場合は職員が同行し結果は電話で細かく伝えています。職員は一人ひとりの状態を業務日誌や連絡ノートで共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当医や家族に伝えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き情報を交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医や家族と決めている	事業所の方針として重度化や終末期には対応していません。入居時に本人と家族に説明し同意を得ています。状態により段階的に話し合い、施設への入所希望の場合は紹介などの支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を実施したりマニュアルを作成している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練をおこなっている	年2回、併設特養と合同で避難訓練を実施し、備蓄も法人として管理しています。事業所独自で毎月、火災、地震、夜間想定などパターンを変えて実施しています。各居室にも避難経路が貼られ、職員も1人ひとりの誘導路を把握しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切にし本人本意を重視しすべての対応に気配りをしている	尊厳を尊重した、敬語ではあるが柔らかな言葉使いを心がけています。時には職員同士が注意し合い、振り返りをさせています。居室に入るときは必ず本人の許可をもらい、排泄誘導時の声かけにはプライドを傷つけないよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な範囲で本人が自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者のペースに合わせて支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により定期的に訪問してくれる理髪・理美容を利用している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ役割をもって食事づくりをおこなっている嗜好調査の実施や好みの外食にも出掛ける機会を設けている	メニューは併設特養の栄養士が作成し、用意された食材を、毎回入居者が取りに行き職員と一緒に調理(下ごしらえ、盛り付け)配膳、片付けなど、出来る範囲で役割を持ち、生き活きと取り組んでいます。ホーム以外の職員も検食担当者として会食します。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表にて把握できるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕2回の口腔ケアをおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録してパターンを把握しトイレでの排泄を支援している	各居室にトイレがあるので「お部屋に行きましょう」とトイレに誘い、失敗した場合もさり気なく交換しています。自立で排泄できる方が多く、排泄チェック表を改良して見やすくし、パターンを把握して全員が昼間はトイレで排泄しています。居室のバットの収納にも羞恥心を配慮するよう工夫されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて水分補給や運動ができるようにこえかけしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日時間帯は決まっているがのんびり入浴できるよう配慮している	日曜を除く13時から入浴可能で、基本は週3回ですが、希望により毎回でも可能になっています。拒む方には無理強いせず気分を変える声掛けをし浴室に誘い、季節によってゆず湯や菖蒲湯などで楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りに入れない時等より添って話しかけたり落ち着いていただけるよう努めている又必要に応じて昼寝もとりにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の薬の説明書により把握変化があれば主治医に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力や状態に合わせてできることを各利用者にやってもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園内外への散歩を体調や天候をみてすすめている 定期的に季節感を感じていただけるよう外出している	現在併設特養の増床工事のため園外への出入りが禁止されているので、天気がよければ園内を散歩しています。帰宅願望や不穏なときは、デイの車に同乗して気分転換に出かけます。月1回はドライブや外食を企画し出かけています。家族が受診日に帰りに買い物や外食することもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を預かっていて希望により自動販売機のジュースを自分で求められるようになっていて個人がお金を使っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙のやりとりができるよう働きかけている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾っている	台所を中心としたリビングはから良い匂いが漂い、天窓や窓から光が差し込み、明るく広い空間になっています。フロアでは輪投げなどゲームをしたり、ソファや畳コーナーなど気に入りの場所でゆったりと過ごしています。壁には入居者の作品や季節の飾りが、さり気なく掛けられています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置いてのんびりできるように配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込みできるようにしている	居室にはトイレ、洗面台、ベッド、テーブル、クローゼットが備えられています。布団、筆筒やテレビ、人形などが持込まれ、洋服が掛けられてその人らしく過ごせる環境になっています。掃きだし口からは自由に庭に出ることができます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが設置してあり居室に目印をつけてある 各居室にトイレと洗面所があり自立した生活が送れるようになっている		